





これからの時代は、女性防災士の目線が必ず必要です。小さなお子さ



田窪地区防災士 上野 美晴さん・小野 公子さん

― 災害時こそ男女共同参画 ―

各方面で普及が進む「男女共同参画」。その言葉が一番身近になるのは避難所での共同生活を行うときかもしれません。田窪地区で活躍する2人の女性防災士に話を伺いました。

ながいる家庭や高齢者の方への気配り、避難所での生活となれば、プライベートな部分も確保していく必要がある。男性と女性が共に長所を活かして短所を補えるようにしていくことが大事と思っています。

最近「役員になるのが嫌だから組に入らない」という声を聞きますが、組に入っている人は皆さん役員を経験しているので助けてくれます。交流が生まれ、いざという時の支えになりますし、いろんなことが知れ、楽しいことの方が多いですよ。地域はみんなが支えあって生活していると実感しています。



CASE 1  
田窪地区自主防災組織

6月9日(出)田窪地区自主防災組織の主催による防災訓練が開催され、一般救命、応急手当、AEDの使い方の講習、保存食の試食などに約50人が参加しました。真剣にカリキュラムを受講するなかでも和やかな雰囲気でも、「参加しやすさ」を大事に活動しています。

― 大規模災害が発生した時に求められる対応は？ ―

訓練を主催した田窪地区自主防災組織の東会長(田窪区長)に、地域の取組みを活発にするため大切にしていることを伺いました。

防災訓練を始めたのは最近ですね。いつ災害が起こってもおかしくない時代、地域の人たちが日頃から意識を高めていくことが必要だと考え、地区役員や組長の皆さんに声をかけて開催しています。多くの住民が頭の片隅にでも災害に対する知識を持っておく、それが、いざというときの行動に繋がると考えています。

田窪地区は、昔からの町並みに住む人と、新しく団地や開発などで移り住んできた方が混ざりあって暮らしている地域です。今の時代、近所のコミュニケーションがとりづらくなっていきますが、大切なのは普段の関係づくり。今回の訓練も、AED(自動対外式除細動器)や消火栓の使い方、応急手当の実践や保存食の試食など参加型のカリキュラムを組み、「温かい雰囲気を出そう、楽しく、有

― 防災訓練に参加して ―



福増 愛彩ちゃん・稔子さん親子

勉強になりました。被災した時に、小さな子を持つご家庭なら避難所までの行動も難しいでしょうし、例えば未就園の子が2人となればさらに難しい。いざというときに周囲の人の気遣いや助け合いが大事になってくると思います。避難所での共同生活ではトイレの数やオムツ替えの場所などプライベートな部分が気になります。スペースを確保して、地域の皆さん同士で助け合える関係づくりが普段から必要と感じました。



主催した東 集也 田窪区長

意義な時間を目指している」と役員全員が心がけました。AEDは実際に使ってみると音声ガイダンスが流れて簡単に使えるようになっていきます。訓練の時に一度でも使っていることで、緊急の時にはその体験が必ず役に立つはず。消防隊員が来るまでの間の行動が、命を救うということを確認しておきたいですね。

今、田窪地区では集会所を新しく建設しています。今回の訓練参加者には、赤ちゃんや小学生のお子さんの姿もありましたが、避難所となる集会所ではトイレやプライベートスペースの確保など、性別、年齢によってストレスがおきないように取り組む必要があります。地区の12人の防災士を中心に、有事には地域で支えあえる、共助の体制を整えたいと思っています。



大西 柑花ちゃん・宏美さん親子

今は小さな子どもがいるので、避難所での生活を考えると泣き声やオムツ替えで周りの人に迷惑がからなにか心配です。今回初めて訓練に参加しましたが、田窪の方は皆さん優しく、今日も子どもが泣いたときに「大丈夫？疲れるよね？」と声をかけてくれたので安心しました。

家には災害用の避難袋を備えていますが、今日の訓練を聞いて、少し足りないかな？と思ったので家族で見直したいと思います。



地域みんなで支えあおう！







### CASE 3 福祉避難所設置協定

6月4日(月)、福祉避難所設置運営に関する協定書調印式が行われ、新たに2拠点が加わりました。これは、市内に災害が発生した場合、要配慮者の方への避難生活支援を行えるよう民間事業所の力を活用し、有事に備えるもので、現在公管理施設を併せて23か所が指定されています。

今回新たに協定を締結したのは、特定非営利活動法人ヘレン（田窪・特定非営利活動法人ヘレン運営）と、多機能型事業所愛キッズ東温（見奈良・一般社団法人愛キッズ運営）です。調印式では、ヘレン理事長浅海清仁さん、愛キッズ代表理事渡部史紀さんのお二人から「小規模施設の特性を活かして、きめ細かな目配りを行い、安定した避難生活ができるようサービスを提供したいと思います」と、心強い「あいさつ」をいただきました。

高齢者や障がいのある方は、自分ひとりで避難することが難しく、移動にも時間がかかります。地域の皆さんが協力し、助け合うためには、普段からのコミュニケーションが重要になります。まず声をかけ、困っていることを聞き出し、サポートしましょう。また、あらかじめ避難行動要支援者として市に登録しておくことで、災害時には関係機関が情報を共有し、安否確認や避難誘導の支援を行いますので、登録をお願いします。



### CASE 2 北吉井小少年消防クラブ

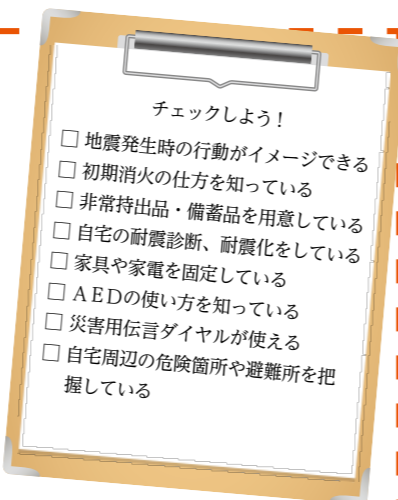
5月18日(金)消防本部にて、北吉井小学校4年生の皆さんの少年消防クラブ入会式と消防署見学が行われました。子どもたちが防火を意識することで、家庭内・地域内での火災予防・避難、支援行動に繋がります。



市内公共施設で配布しています

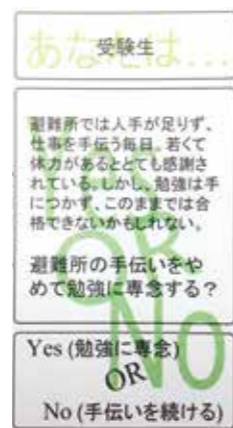
**分からないことは  
防災マップで確認を**

東温市防災マップには、地区ごとの避難所や危険箇所などが記載された地図により、実際に職場や学校周辺の状況を把握することができます。「地域ハザードマップ」が掲載されているほか、地震・火災のときの行動マニュアル、風水害・土砂災害のときの行動マニュアルが掲載されています。災害は、ある日突然やってきます。そのとき生死を分けるのは「とっさの行動」。いざというとき慌てず行動できるように、普段から対処法をご家族で話し合い、共有しておきましょう。



**東温市では女性消防職員も活躍しています!**

東温市消防署では、市民の生命、身体及び財産を災害から保護するという消防の使命達成を目的に日々救助訓練を行っています。



**究極の選択?  
クロスロードゲーム**

クロスロードゲームは、災害対応時の様々な意見や価値観を参加者同士で共有し、その存在に気付くことで、防災問題に関して事前に合意形成を図る際の一助として使用する防災ゲームです。

〈例題〉



宮倉 瑠菜さん (4松)

もし火災や災害が起こったら自分から率先して学校の先生や大人の人、消防署に連絡できるようにしたいです。そして困っている人を見つけたら、助けてあげられるようにしたいです。



室本 晃希くん (4竹)

学校への通学中や、普段から「あいさつ」を心がけてやっています。あいさつをすることが、災害が起こったときに行動できるための第1歩だと思います。災害のときや火事などを発見したとき、困っている人がいたら助けてあげたいと思います。



大本 翼くん (4梅)

もし災害が起こったとき、避難所などで地域みんなが集まるといいなと思います。そんなとき、困っている人がいたら助けてあげられるように行動したいです。

東北地方で7年前に大きな災害があり、多くの尊い命が失われました。皆さんは大きな災害が起こったとき、自分の身を守ることが出来ますか？愛媛県でも南海トラフ地震が起こると言われていますが、自分の身は自分で守れるよう、これからしっかり勉強してください。

— 東温市消防署 渡部副署長あいさつ —